

今年の夏休みは、ロンドンオリンピックがありました。日本選手の応援に熱がはいりましたが、選手たちの素晴らしい演技・競技を見ると、国を超えて感動しました。金メダルを取った選手が、恩師に「努力したから報われるとは限らない。しかし、努力しなければ報われることはない。」といわれ、厳しい練習にたえたとインタビューで話していました。2学期は、スポーツテスト、遠足、修学旅行、音楽会などの行事があります。子どもたちには、自分の得意な分野をより一層極めたり、苦手な分野を努力で克服したりして、未来への可能性を広げてもらいたいです。そのために、保護者の皆様と連携を図りながら、時には厳しく、時には優しく指導していきたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

あいさつする子
しっかり学ぶ子
たのしく遊ぶ子

○豊かな心を育みます 平和について考える日 8/6

8月6日の平和登校日には、ヒロシマの原爆投下時刻の8時15分に全員で黙祷をささげました。各学年でDVD等を見て、戦争と平和について考えました。終戦から67年の月日が流れたなか、戦争体験のない私たちも、平和の大切さを子どもたちに伝えていかななくてはなりません。子ども達が、大人になったときに、次の世代に平和の大切さを伝えてくれるよう、平和学習を進めていきます。

- しんちゃんも、大きくなったらなりたいたいものがあったと思うけど、死んじゃって戦争はこわいなと思いました。自分たちは戦争がないように、友だちと仲良くしていきたいなと思いました。
- もし、(爆弾が)落とされなかったら、しんちゃんは、まだまだ三輪車を大切に使っていたら。わたしは、しんちゃんの三輪車の中に、しんちゃんのたましいと思いが入っていると思います。
(2年「しんちゃんの三りん車」を見て)

- 広島や長崎に落とされた原爆は、とてもこわいと改めて分かった。身近なけんかから戦争に変わるので、なるべくけんかをしないように心がけたらいいと思う。昔の人たちに、少しでもお肉やお魚やおすしをあげたい。もう、あんなことは起きてほしくないし、これからも原爆の怖さを感じて、昔に死んでしまった人の分も、成長していく。
- 私が伝えたいのは、もう争いや戦いは決してしないでということだ。なぜなら、人が苦しんで死んでいくし、つみのない子どもたちまでもが巻き込まれて死んで、「何の関係もないのに」と思ったからだ。
- もう、これから戦争が起きないようにしたいと思う。そのためには、ふだんから、けんかをしてもすぐ仲直りできるようにすることが大切だと思う。私たちは、6年の修学旅行で広島に行くから、そこでも、戦争や平和のことについて学んでいきたい。
(4年「夏服の少女たち」を見て)

○豊かな心を育みます 6/29~7/14 エルマリノ小学校との交流 人との出会いが心をたがやす

東山小学校の子ども

- エルマリノ小学校の子たちは、歓迎会のときに日本語で話していてすごかった。幼稚園のころから日本語の勉強をしていて、すごいなと思った。私も大きくなって、いっぱい英語をしゃべれるようになって、アメリカに行きたい。
- 日本に来るとき不安があったのかなと思った。エルマリノの子たちは、「長年の夢がかなった。」と言っていた。長年の夢がかなうっていいなと思った。
- エルマリノ小学校の子と出会ったとき、いろいろな子がいた。髪の毛の色もちがった。私は、何時間もかけてここまで来てくれたエルマリノ小学校の子に「ありがとう」っていいくらい、感謝している。いろいろ勉強したり遊んだりして、最高の絆が深まった友達になりたい。

エルマリノ小学校の子ども

- 日本に来るのがとても楽しみでした。とっても暑いけど、アメリカの学校よりすごく楽しくて、ひるごはん(給食)がとってもおいしいです。びっくりした時は、お茶漬けをみた時でした。むずかしいときは、大阪弁が分からなかったときでした。でも、このホームステイはもう終わりたくないです。
- 日本の習慣(手を合わせて「いただきます」ということ・家の中で靴を脱ぐことなど)は、アメリカと違うところが楽しいです。ぼくの大好きなものは、花火です。食べ物は、とてもおいしいです。ホームステイも楽しいです。日本は大好きです。
- みんなは、やさしくて、何をやるのか分からなかったら教えてください。勉強はアメリカより大変です。花火をやって楽しかったです。花火はアメリカでできないから、もっとやりたいです。大阪弁を習ってきたけど、とてもむずかしいです。日本ではいろいろなくつがあつて(上靴・下靴・トイレのスリッパなど)混乱します。もう1回、ホームステイしたいです。



ホストファミリーの皆様の感想を、1部ご紹介します。事前の情報が少ないうえ、生活習慣の違い子どもたちや引率の方を、長期間滞在させていただいたホストファミリーの皆様には、本当に感謝しています。ありがとうございました。

「日本」が当たり前ではなくなり、視野が広がりました。人との出会い・別れを大切に思い、言葉で通じなくても、心で通じることを肌で感じる事ができました。ホストファミリーを終えて、家族全員が、経験してよかったと心から思っています。大人を受け入れてよかったこと⇒アメリカの家庭料理を食べられたこと。英語の歌を教えてくれる。和食でもチャレンジして、何でも食べてくれる。英語を聞き続けるので、耳が鍛えられる。(英語を習っている人には、オススメ)

小学校5年生で2ヶ国語以上話せる子どもたちに出会い、英語の必要性を実感することができました。子どもが同じ趣味(野球)を通して、日本とアメリカの違いを知ることができました。日本の料理を食べてもらうだけでなく、滞在中(親)に郷土料理を調理してもらったり、子どもたちも一緒にアメリカのおやつ作りを経験したりしました。(真似したいほど美味しかった。)

ホストファミリーを経験して、私たち家族は得る物が多かったと実感しました。違う国で育った他人の子どもと生活すると、その子がどういう風に育てられているのか、リアルに分かる、日本と違った子育て法に気づき、『良い部分をこれからの自分の子育ての中で取り入れていこう!』と母親としてもたいへん勉強になりました。

日本語がある程度話せるとはいえ、通じないことも多く、最初は、うちの子どもたちとも距離がありました。でも、子どもたちなりに相手のことを考えて、分かりやすく話したり、「これは英語で何て言うの?」と聞いてみたり、コミュニケーションもうまく取れるようになりました。私も含めて、とてもいい経験ができたと思います。

とても上手に日本語が話せたので、9割位は英訳せずに通じたようです。子どもたちもそれなりに気をつけていたのか...?いつものワガママも我慢していました。めったにできない経験だったので、今回引き受けて良かったと思います。

ともに生活することができ、本当の家族のように思えました。あまりにも日本語が上手だったので、英語を使う場面はほとんどなかったけれど、質問をした時に、例えば、「兄弟は何人いるの?」と聞くと、「(自分を入れずに)2人」(弟と妹の数だけ答えた)と、英語と日本語の感覚の違い(?)みたいなものを、肌で感じる事ができました。エルマリノの子が、将来の夢(宇宙飛行士)をしっかり持って、子どもたちもそれを聞いた時は「すごい」と大きな夢にちょっと驚いていました。